

トークイベント「たにまち三代を語る」

大阪の谷町、東側を東成という。「たにまち」とは言うまでもなく、ひいきの力士に散財する旦那衆をさすが、外来語なら「パトロン」を連想する。その「たにまち」を三代にわたり、いろいろな形で実践してきたのが東成の中村家である。

祖父、父、子。各人が熱く支援した対象は、栃若時代のヒーローであったり、あるいは須田剋太画伯、はたまた街のお年寄りたちの暮らしであったりと、様々であるが、貫かれているのは無私の思想、「まかしとけ」の心意気だ。

昭和のはじめ頃から現代に至るまで、ボランティア精神あふれる中村さん方三代の歩みは、今月1日発売の『大阪春秋』（秋号・156号）に「**タニマチの精神ここにあり ～祖父、父、子 東成に息づく中村家三代、まかしとけ！**」の心意気にくわしく掲載されている。

今回は、取材と執筆を担当した同誌編集委員の浅野詠子さん（ジャーナリスト）をお迎えし、今や絶滅危惧種となりつつある「たにまち」について楽しく語っていただきます。

記

と き 平成26年10月15日（水）午後6時から

ところ 新道パトリ（**大阪市東成区大今里1-35-20**）

講 師 浅野詠子氏（ジャーナリスト、『大阪春秋』編集委員）

参加費 1000円

定員 15人（先着順）

連絡先 松下（090-9058-6761）

終了後、三福〔新道パトリ前〕にて交流会（実費）

主催 介護、住まい、防災ネットワーク

協力 郷土誌『大阪春秋』